

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072500125		
法人名	有限会社グループホーム宮口		
事業所名	有限会社グループホーム宮口		
所在地	群馬県安中市松井田町二軒在家1580番地4		
自己評価作成日	平成23年10月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/">http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成23年10月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

温かく明るい施設であるよう開所より心がけ運営をしています。利用者さんも職員も楽しく笑顔で日々が送れるよう全体が支えあい助け合い共に月日を重ね、いっぱい笑って苦しみや悲しみも共有して行く施設であり続けたいです。しばしば施設では歌声や笑い声が溢れていると思います。そして皆様が心身ともに安心で安全を感じて楽に過ごしていただければと思います。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念の3本柱の一つに「地域密着の施設を目指す」と掲げられているように、地域とのつきあいを大切にしている。町内会に加入し、地区の公会堂の鍵の管理を施設で行ったり、法人の敷地をゲートボール場や駐車場として地区に開放し、そこを利用する人々が施設の草むしりをしたり、入居者と会話をしたりしている。また、隣接の農地の耕作者が入居者が居室等から眺め、楽しむことができるよう季節の草花を植栽したり、近隣の人達が野菜を届けてくれたり、踊りなどのボランティアの方の慰問をいただいたり、地域の方との協力関係を築きながら施設の運営に努めている。また、管理者は、人間関係を大切に、職員が明るく楽しく仕事に従事できるよう心がけ、運営については職員と共にすることを基本に考えている。職員からの意見や提案、要望等については、毎月の処遇会議や日常の中で聞くようにしており、現在の理念は職員全員で話し合い、見直しをしたものである。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりがが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
○	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を改めて職員全員で作直し、より深く理念のもと介護が行えるようになりました。	開設当初からの長文の理念について、職員全員で話し合い、見直しを行い、趣旨を尊重しつつ、簡潔で分かりやすい内容の理念に仕上げ、理念を共有しながら、理念の実践に努めている。	
	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は地域とのつきあいなどがほとんどできずにいます。	町内会に加入し、公会堂の鍵の管理や施設の敷地を地元のためにゲートボール場や駐車場として開放するなど、地域とのつきあいを大切にしている。また、隣接農地耕作者が入居者が居室等から眺められるよう季節の草花を植栽したり、近隣の人たちが野菜を届けてくれたり、踊りなどのボランティアの方の慰問を頂いたり、地域の方との協力関係を築きながら施設の運営に努めている。	
	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	できていません。		
	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年は施設事情にてまだ行えずにいます。	現在諸般の事情で会議を中断しているが、これまでに区長や民生委員、市の担当者、家族の出席により夕方開催してきた。会議は、事業状況などの報告を行い、出席者から意見等をいただいていた。防災などの関心事を議題に取り上げ、年内には会議を開催したい意向である。	これまで築いてきた協力関係を大切に、双方向的な運営推進会議の実現を期待したい。
	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	なかなかできません。	市の担当者とは、日頃ホームの空き情報等の実情について情報を伝えたり、更新手続きなどで窓口へ直接出向いたり、電話等で必要に応じ指導助言を頂いている。震災時には、市職員の訪問も有り連携を図りながら取り組んでいる。	
	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	精神不安定な利用者が増えてしまい、介護を維持するため数名身体拘束をしてしまっています。	身体拘束について管理者を中心に、毎月の職員会議や日頃のケアの中で話し合い、理解と共有を図り、身体拘束をしないケアの実践に努めている。やむを得ず安全ベルトやつなぎ服を使用する時は、入居者の状態等についてあらゆる角度から検討し、対応策について話し合い、工夫を重ね、また、家族には十分説明し、理解を得ながら行っている。	
○	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はありません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	できていません。		
9	○	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要なことは必ず契約時説明しています。		
10	(6) ○	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書にひつような外部機関を記載しています。(国保連・行政)	家族には、毎月手紙で入居者の状況などを写真とともに送り伝えている。また、面会時にも、できるだけ入居者の様子を伝え、意見や要望等を聞くようにしている。苦情等については、玄関に意見箱を設置するほか、内部や外部に表せる窓口案内を重要事項説明書に明記すると共に家族に説明をしている。	
11	(7) ○	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議にて意見を介護運営に反映しています。	管理者は、人間関係を大切にし、職員が明るく楽しく仕事に従事できるよう心がけ、運営については職員と共につくることを基本に考えている。職員からの意見や提案、要望等については、毎月開催の処遇会議や日常の中で聞くようにしている。勤務体制についても、職員の希望を聴きながら組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	近年各種就労環境が厳しい状況になってしまっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は出来ていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ここ数年、交流機会が困難になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15	○	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して暮らしていただけるよう初期の信頼関係構築に職員一同努めています。		
16	○	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者さん同様に初期の信頼関係に努めています。		
17	○	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期アセスメントに努めています。		
18	○	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに生活をする場として支えあう関係を目指しています。		
19	○	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方との絆・つながりを大切にしよう運営しています。		
20	(8) ○	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	必要に応じて支援をしています。	家族の面会のほか、日常的に近所の方が入居者を訪ねている。また、ドライブの時入居者の家を訪れ一緒に写真を撮ったり、家族と一緒に墓参りしたりなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21	○	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体的に重度化してきていて以前より難しくなっていますが、そうあるよう務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9) ○	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に沿えるよう努めています。	入居前に生活歴を聞き、帰宅願望のある方には傾聴し、気がまぎれるようにするなど、日々の生活の中で寄り添い思いや意向を聞き、把握するように努めている。困難な場合は、本人の状態をできるだけ観察し、仕草等から時には家族と相談したりするなどして、思いや意向の把握に努めている。	
24	○	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限りその人らしく暮らせるよう把握に努めています。		
25	○	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりを尊重して適切な介護が行えるよう努めています。		
26	(10) ○	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランは職員間でカンファレンスをして、さらに本人・家族にニーズを聞き作っています。	ケアマネージャーである管理者が、家族の意見や要望を聞き、必要に応じ医師と相談し助言等をいただき、経過観察しながら職員からの意見等を聞き、長期6ヶ月・短期3ヶ月の目標の介護計画書を作成している。毎月の処遇会議で支援方法等を話し合い、変化がない場合は6ヶ月毎に見直しを行っている。変化がある場合は随時見直しを行っている。	介護計画書や生活記録、業務日報を職員が一体的に見られるよう工夫し、介護計画書に基づくケアの実践がより明確になるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には特に活かしていません。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いまはできていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いまはできていません。		
30	(11) ○	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院の往診・受診とあわせて必要な医療機関の受診に努めています。	契約時に協力医の往診状況を家族に説明し、家族と相談の結果、医療面から従前からのかかりつけ医が必要な方を除き協力医がかかりつけ医となっている。基本的には、他科の受診を含め、通院介助は日々の生活状況を把握している職員が行っており、受診結果は家族に伝え、情報の共有を図っている。月1回の往診があり、管理者が立ち会っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職との協働はありません。		
32	○	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	家族負担が軽減できるよう必要な協働を医療機関と行っています。		
33	(12) ○	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	見取りは行っていませんが、出来る限りのケアを重度化してもこれまで行ってきています。	基本的には、医療行為が必要で入院しなければならない場合を除き、ホームでケアをする考えであるが、入居者本人にとって一番ふさわしいのはどこなのかを念頭に、入居者の変化に応じ、その都度医師・家族と話し合い、対応している。職員もこのことを理解、共有している。	
34	○	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料等を揃え事故対応に努めています。		
35	(13) ○	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震の際改めて区長さんと協力体制を築けるよう確認しあいました。	緊急時の対応マニュアルに基づき、年2回、うち1回は消防署の立会いの下、夜間想定も取り入れ、通報・誘導・消火の訓練を行っている。震災の停電時、オール電化のため混乱し、近所の方からガスボンベの提供を受けたのを教訓に、コンロの備蓄に努めている。	とりわけ職員の手薄な夜間における近隣の人の具体的な役割を踏まえた協力体制の確立を図ることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の尊厳とプライバシーが保たれるよう対応に気を配りケアをしています。	居室入室時の声かけや入浴時の対応、トイレ終了時鈴を鳴らして知らせる工夫等プライバシーの確保に努めている。また、できるだけ目立たず、さりげない言葉かけや対応を基本にして入居者に接するようにして、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し個々の時間・リズムを尊重・支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間等崩せない部分もありますが、可能な限りその人のペースを大切にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを尊重して支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	以前は一緒に食事ができていましたが、重度化が進み介助場面が増えて別時間になっています。また準備等は現状として困難です。	献立は業者が作成したものを基本に、おはぎなどの季節感のあるものを取り入れている。また、季節ごとに入居者から食べたい物の希望を聞いたり、できる入居者にはテーブル拭きやいもがらの皮むきをして頂いたりするなど、食事を楽しむことの支援に努めている。食事は介助を必要とする方には、職員が介助し、職員が見守るなか食事をしている。おやつは職員も一緒に食べる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量に注意して不足がないよう記録しながら適切な栄養摂取が図れるよう支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	行ける人には可能な限りトイレでの排泄が行えるようケアしています。ただ高齢化・重度化により、年々オムツ使用率は上がっています。	個々の排泄の記録表をチェックし、時間を見ながら誘導するなど、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援している。また、トイレでの座位が保てない入居者には、座位保持訓練を行うなど、個々の状態に合わせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表にあわせて個々にあったサポートをしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	j利用者さんの状態もあり実施可能な入浴の介助となっています。	1日3人くらい、午後に入浴時間を設け、週2回程度の入浴支援を行っている。入浴も大切な時間と考え、車椅子の方なども機械浴に頼らず、重度の方には2～3人の職員で介助するなど、ゆったりとした入浴ができるよう支援している。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を取り入れたり、職員と一緒に歌を歌ったり、入浴を楽しむことができる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態を把握して必要と思われる支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	間違いがないようチェック表を用いて服薬支援をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	少しでも日々を自分らしく楽しく過ごしてもらえるよう支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る範囲での支援をしています。	天気の良い時には、近場の散歩や屋外で椅子に腰掛けて外気浴をするなど、気分転換や五感刺激としての日常的な外出支援を行っている。また、桜などの花見や紅葉狩りなどにドライブに出掛けたり、外出を楽しめる支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在1名のみしています。が実際に難しく対応に苦慮しています。		
51	○	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要時支援しています。		
52	(19) ○	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活の場としての施設であるため開所以来空間作りに努めています。	廊下や居間(兼食堂)などは、明るく、清潔感があり、また、季節のものをモチーフにした貼り絵や諸行事のスナップ写真などが飾られ生活感や季節感がある。ソファが置かれゆっくりテレビを見られるコーナーもあり、居心地良く過ごせるような空間となっている。	
53	○	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれにとって過ごしやすいようケアしています。		
54	(20) ○	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきてもらっています。	居室には、馴染みの家具や小物などが配置され、また、入居者の家族の写真や絵手紙などが飾られ、本人が居心地良く過ごせるような空間となっている。	
55	○	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	そうなれるよう環境配慮しています。		